



今月の話題

- ◆ 気象から見た米の概要
- ◆ 気象変動に負けない米作り
- ◆ 令和3年産米の需給について情報
- ◆ 農政ダイジェスト

メモ

- ✓ 廃プラスチック類回収
日時：11月28日（土） 近江CE・神照CE
12月5日（土） 伊吹CE・長浜CE
9：00～11：30
- ✓ 農業機械展示会
場所：JA全農しが長浜農機センター
（長浜市小谷丁野町360）
日時：11月20日（金）9：00～16：00
21日（土）9：00～15：00



11/5に米原市の成宮賢司様の圃場にて地元小学校から70名程参加しブロッコリーの収穫体験を行いました。参加した生徒は2人ペアで協力しながら収穫作業をし、自分で収穫したブロッコリーを2個持ち帰りました。日頃何気なく食事していたものが生産者を含め色々な人が携わり食卓に並ぶことも学習できました。

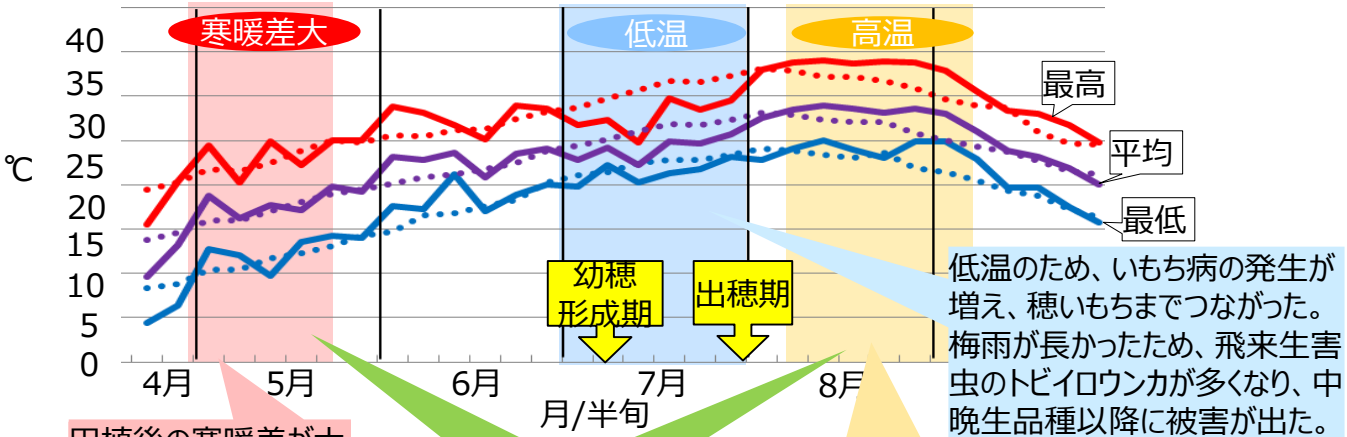
気象から見た米の概要

今年産は、5月中旬の寒暖差、7月の長雨日照不足、8月は高温となり、気象変動が大きく米作りには難しい天候となりました。

令和2年稲作期間半旬別気象表

【気温の推移】

本年：—— 平年：.....



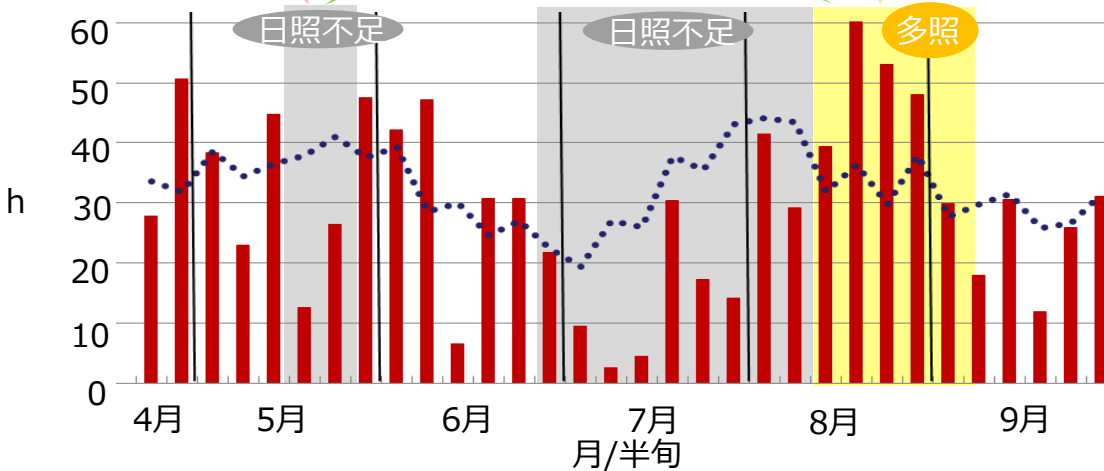
田植後の寒暖差が大きく、5月中下旬の低温、寡照により分けつが遅れ、茎数や籾数に影響があった。遅植えには影響は少なかった。

収量については、生育期前半の茎数不足の影響により穂数が少なかったものの8月の天候が良好であったため登熟が向上し平年並〜やや少ない。

平年よりも高温で推移し、登熟は良好であった。品質について、早生品種は異常高温ではなかったため良好。中生品種は、高温で推移し、未熟粒、乳白粒が発生した。

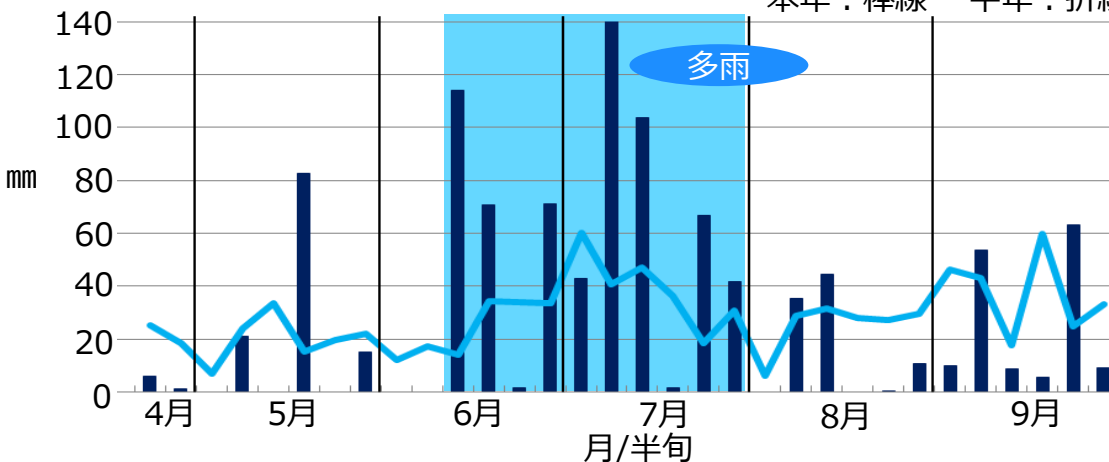
【日照時間の推移】

本年：棒線 平年：折線



【降水量の推移】

本年：棒線 平年：折線



気象変動に負けない米作り

今年産米は、胴割粒や斑点米カメムシにより品質低下が見られました。収量については、コシヒカリの早植えで収量がやや少なく、遅植えは平年並みの収量が確保できたと思われます。

基本的な栽培ポイント

コシヒカリ栽培暦

月	6月	7月			8月			9月
旬	下	上	中	下	上	中	下	上
生育期		幼穂形成期			出穂期	登熟期		
水管理		湛水管理(出穂前後各3週間)						
作業	1回目の穂肥 出穂の18日前	穂肥 ①	穂肥 ②		防除 カメムシ防除の徹底		落水	収穫 適期収穫 乾燥温度に注意

深耕をしましょう。作土深が浅いと、根張りが浅く登熟期の高温に対する抵抗力を弱めます。

適期収穫
乾燥温度に注意

落水後の管理
✓ 収穫前まで土を白く乾かさない。

一発肥料のポイント
✓ 出穂時の葉色確保
✓ 一発肥料を施肥されていても、出穂前に葉色が薄ければ、外觀品質の向上のため、(N:1kg/10a)を施用します。

2回目の穂肥
✓ 出穂4日前の散布(穂肥1回目から2週間後)

水管理のポイント
✓ こまめな水管理
✓ 夕方入水
✓ 深水管理
✓ 常時湛水管理

けい酸加里プレミア34の紹介

NEW

令和3年産水稻資材注文書にけい酸加里プレミア34をラインナップしました。マルチサポート2号とともに効果の高い資材です。

➤ けい酸プレミアム34とマルチサポート2号の比較

● けい酸加里プレミア34

- 散布時期：田植え後30～45日に散布(中干前頃)
 - 散布量：20kg～40kg/10a
 - 保証成分：
 - ＜溶性加里 20%
 - 可溶性けい酸 34%
 - ＜溶性苦土 4%
 - ＜溶性ほう素 0.1%
 - その他含有成分：
 - 石灰 7～12%
 - 鉄 2～5%
- ※＜溶性：ゆっくり長く根から吸収される成分



不足しがちな「けい酸」と「加里」を補うことで、高温障害軽減や収量・品質向上が期待できます。

● マルチサポート2号

- 散布時期：出穂約40日前までに散布
- 散布量：20kg～40kg/10a
- 保証成分：
 - 水溶性苦土 12%
 - 水溶性マンガン 0.2%
 - 水溶性ほう素 0.2%
- その他含有成分
 - けい酸 20%
 - 鉄 3%
 - 銅 0.02%
 - 亜鉛 0.05%



総合ミネラル入りマグネシウム肥料。登熟を良好にし、品質・食味向上が期待できます。

令和3年産水稻用生産資材注文書を11月中旬以降配布されますので、よろしくお願ひします。

農水省は10月16日、2021年産の主食用米の需要に見合った適正生産量は679万トンに設定されました。今年は需給緩和の懸念を受け前倒しで発表がありました。昨年まで毎年10万トン消費が減少していることをお伝えしていましたが、大幅な減少になっています。

2021産米適正生産量

20年産の
生産量見込み
(作況101)
735万トン



20年産が
平年作でも
729万トン



21年産の適正生産量
679万トン

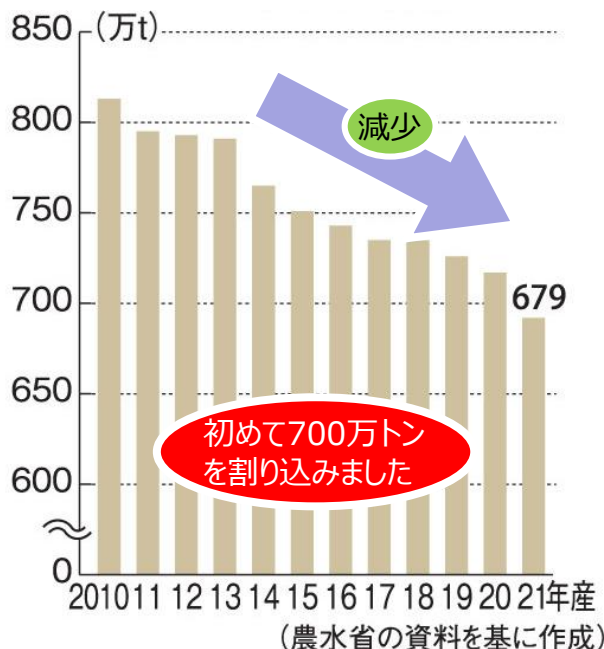
✓ 2021年産（9/15現在）の予想収穫量735万トンと比べると、需給均衡には56万トンの減産が必要になります。

- ▶ 56万トンとは…
 - ・ 面積換算で10万ha
 - ・ 近畿地方（9.77万ha）の主食用米作付面積に匹敵

✓ 米価については2014年産以来の下落

需給の指標となる21年6月末の民間在庫量は221万～227万トンの見通しで、適正水準の180万トンを大幅に上回ると報道されています。2021年産の米価の安定のため、更に生産調整の拡大が必要となるおそれがあります。具体策については今後おつなぎいたします。

表.米の生産数量目標、適正生産量の推移



作付面積、耕地利用率の減少続く

農林水産省は2019年の農産物作付け（栽培）延べ面積と、耕地利用率を発表した。田畑を合計した作付け（栽培）延べ面積は、前年に比べて2万8000ha減少して402万ha。耕地利用率は91.4%でいずれの値も過去最低を更新した。

過剰分は来年の秋に販売

JAグループは国の事業を活用し、20年産米の過剰分20万トンを来年の秋以降に全国で販売することを明らかにした。コロナ禍で需要の減少が急速に進む中、需給緩和のおそれから売り急ぎ、米価が下落することを避ける目的。

等級区分の見直しに慎重な意見

7月の規制改革実施計画に農産物検査規格の見直しが盛り込まれたことを受け、農水省は検討会の初会合を開いた。米の検査規格の1・2等級区分について、政府側は品質格差が少ないと見直しを迫ってきたが、生産者や卸からは慎重な意見がでた。

ウィズコロナ時代に合わせた内容に

21年度の農林水産関係予算の概算要求の内容が、明らかになった。総額は20年度の当初予算に比べて約20%増加し、2兆7734億円。コロナ禍の影響を受けた生産基盤の維持・強化、また新しい生活様式に向けたスマート農業に注力するとした。